

“岩手の大津波被災地（鶉住居）で活躍する ビオトープアドバイザー・加藤直子さん” レポート

ビオトープアドバイザー・加藤直子さん（あさがおネットワーク代表・釜石市）が鶉住居で保護・管理していた貴重種「ミズアオイ」は、去る平成11年3月11日の大津波によって海水と共に汚泥を大量に被り絶滅したと思われましたが、岩手県立大学の平塚明教授（当会特別会員）のご指導とBAである加藤直子さんのご努力によって、鶉住居川上流部田郷の田圃の所有者の協力を得て移植先を確保し、汚泥に含まれる種子を移植して再生に漕ぎ着けました。



圃場の緑の2区画が「ミズアオイ保護区」



「ミズアオイ」移植保護区

先般5月29日（水）、この田圃の保護エリアの周囲に、地元・鶉住居小学校の4年生・5年生全員で田植えを行い、貴重な植物の生態とお米の生産について学びました。



あさがおネットワークのメンバー千田雅恵さんの指導



校長先生自ら田植えの指導・右は加藤直子 BA

また、この水田の管理は出来るだけオーガニックな管理として「ミズアオイ」に負荷のかからない様にする事としています。その為水田の雑草取りは今後継続して大きな仕事になります。



この地域は野生のニホンシカが多く、その対策として周囲にネットを張り巡らす対策も行います。

*この活動には、ビオトープ協会北海道・東北地区の支援を行っています。